

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090100163		
法人名	有限会社ハンドツーハンド		
事業所名	グループホームここあ前橋		
所在地	前橋市朝倉町947-1		
自己評価作成日	平成26年2月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成26年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物内は木の暖かさがあり日当たりも良好です。共有スペースでは穏やかに過ごせるように配慮しています。居室では一人でゆっくり過ごせる時間も大切と考えて対応しています。医療面では24時間医師と看護師の連絡が取れる等の連携体制が整っております。本人や家族が希望した場合はターミナルケアも実施しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の能力や生活リズムを重視するといったケアの基本に忠実に取り組んでいる事業所で、座る姿勢の困難な方にもトイレ排泄を促す支援を行ったり、入浴は着替えから出るまでゆっくり入っていたり、希望があれば連日でも入れるよう本人の意向に寄り添う努力がなされている。また、家族の希望があれば、できる限り利用者の最期の時まで見届ける介護を行っている。利用者の状態変化の過程で、家族に終末期に向けての希望を聞き、看取りに対する希望があれば同意書を取り交わして実施している。職員には、重度化した利用者介護のポイントや看取りを経験しての反省や学びを、職員会議で確認してケアの向上に活かしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念とを共有し利用者が地域の一員として生活が出来るよう実践している。	事業所の頭文字をとった「心地よい、心のこもった、あったかケア」の理念をかかげ、実践できるよう心がけている。わかりやすい理念である反面、職員間で掘り下げて共有するといった機会がなく、地域密着型サービス事業所の目的も曖昧になっている。	職員で、理念の根幹明確に共有する機会づくりに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、町内の納涼祭に参加している。散歩や外気浴の際には近隣住民に挨拶を交わし交流。回覧板等でイベントの告知を行い参加も頂いた。	自治会に入会し、回覧板で互いの催しを知らせ、地域の夏祭りに利用者と参加したり、事業所主催の歌謡祭に近隣の方に来ていただいたりとの交流がある。道路清掃は職員が参加し、記録的な大雪の際には、近隣の方の力添えて、重機で雪かきをしてもらった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	過去にハローワークの施設見学会や説明会を行い認知症についても説明。大学からのボランティアも受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では市職員、町内の自治会長、利用者に参加して頂いている。活動報告や運営の状況を報告し外部評価や実地指導の結果も報告させて頂いている。	現在、運営推進会議は3ヶ月に一度程の開催で、自治会長・市の職員以外外部の人間の参加が見られない。また、会議は近況報告が中心で、意見を引き出しやすくする工夫に乏しい。	年6回の会議回数の確保と、さまざまな意見が出されるよう会議参加者の構成を見直し、介護保険・認知症に関する議題提供等で関心を集めるなど、活発な会議になるよう工夫されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の会議や研修会には参加。懸案事項についても電話や訪問で常に相談させて頂いている。	市の主催する地域密着型サービス管理者の研修会で、さまざまな事業所の取り組みを聞き、自治会入会の有用性を考え、入会するに至った。また、介護保険の書類や加算・解釈で不透明な点は直接窓口に出向き、確認している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践。マニュアルや職員会議で徹底している。夜間以外は施錠しない。	身体拘束に関してはマニュアルを整え、職員会議で拘束について話し合う機会を設けている。また、現在身体拘束の事例はなく、職員の態度や言葉遣いが拘束に繋がらないか、管理者は業務中の配慮を怠らないようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社内での研修に参加機会があれば会議で相談している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性がある時には計画作成担当者を中心に相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に見学をしてもらっている。契約時には家族に説明を行い、納得して頂いてから契約・解約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時に訪問カードに記載してもらおうが用紙に家族の意見欄を設けている。家族とは密に接し、何でも言えるような関係を築いている。	家族を含め訪問される方には、「訪問カード」に事業所に対する意見・要望を記述してもらう箇所を設けており、広い視点からアドバイスをもらえるよう取り組んでいる。また、家族には話が自然に出てくるように馴染みの職員やその家族と年齢の近い職員で話す機会を意識的に設け、雑談のなかの意見や要望も捉えるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見・不満・苦情を気軽に話せる関係作りをしている。課題があった場合は会議で話しあう。	職員会議では、日頃の業務について改善できる点はないか話し合い、見直しを行っている。管理者も介護業務に入り、職員と気軽に会話できる距離にすることで意見が言いやすくなるよう努めている。また、年2回人事考課制度を導入し、自己目標や評価、代表者・管理者への意見が記述できる機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入している。代表者へ意見や希望を聞き反映出来るよう努めている。食事会や飲み会の開催も行う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内や外部の研修を定期的実施している。また連絡協議会や社協の研修には積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に加入しており、会議や研修に参加している。グループホームの交換研修にも受け入れや派遣を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談し状況を把握している。早く馴染んで頂けるような工夫をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族と会い、施設の見学をして頂いてる		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の際に必要なとする支援の把握に努めている。満床の場合はお持ち頂くか他のサービス検討への対応もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が一方向的にサービスを提供するのではなく日常の中で必要な事も利用者と一緒に、学んだりする関係も築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面談した時や必要時には状況の連絡をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の対応で友達や親戚の家に行かれる利用者は以前いたが今ではほとんどなくなっている。関係が途切れるような事はこちらからしていない。	事業所で利用者複数と外出する際、利用者の暮らしていた家の前を通ったり、以前からゴルフが好きな利用者が通っていた練習場に行ったりなどの支援を行っている。また、墓参りや自宅への帰省は、家族の協力も仰ぎ行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	活動や季節行事などで利用者同士の関係を把握。利用者が孤立しないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	違う施設へ入所されてしまった入居者がいますが退所後に継続して関係を保てていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で何気なく思いや希望を聞いている。	現在の入居している利用者の介護度が高く、思いや希望の表出が困難なケースがあるが、スキンシップをしながら時間をかけて表情を読み取ることや、何らかの随意運動がある場合は排便意がある特有の動きであることなどを、関わりのなかから把握し、小さな変化を見逃さずに意向を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に生活歴や暮らし方などを把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアを利用者の状況に合わせて行うよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の意向を反映した介護計画をたてている。変化があった場合は現状にあったプランに変更。	ケアマネージャーが中心となり、職員会議で利用者の情報収集・分析を図り、計画を立案している。出来あがった計画は、職員も目を通して。計画は、概ね6ヶ月に一度立て変えている。但し、計画の実施内容と介護記録に連動性がみえず、職員も介護計画の重要性の認識が乏しい。	介護計画の重要性を職員全員で共有し、利用者の介護目標を意識した記録により、次の計画につながるよう努力されることを期待したい。また、計画の継続がわかりやすいモニタリングや評価の記録がされることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス利用時の様子や気付いた事を個別記録に記入。会議等で情報を共有しながらケアするよう努め介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況で柔軟に対応しようと努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の交番に利用者表を提出し何かあった場合でも対応して頂くよう要請。地域住民にも散歩や行事などで認識して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を優先している。緊急な場合は事業所のかかりつけ医を受けられるよう支援している。今は全員嘱託医での対応となっている。	本人・家族の希望で、かかりつけ医を決める事ができる。現在の入居者は事業所の協力医を主治医とし、月に2回の往診を受け、職員の看護師と連携をとり医療面の支援を行っている。また協力医が看取り支援の中心となり、緊急時も協力医が直接家族に状態説明している。専門医の受診は、職員の付き添いで実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置している。介護職との相談や情報交換で健康を維持し適切な医療に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院をした場合は早期に退院できるように情報交換や相談に努める。退院時にはスムーズに受け入れるよう体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に緊急時の対応や終末期に対して説明を行っている。本人や家族が望みGHでも可能であればターミナルケアも実施する。今年度数名の看取りを実施。	本人・家族の希望があれば、できる限り最期まで見届ける介護を行っている。利用者の状態変化のなかで家族に終末期に向けての希望を聞き、看取りに対する希望があれば同意書を取り交わしている。職員には、重度化した利用者介護のポイントや看取りを経験しての反省や学びを職員会議で確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の心肺蘇生やAEDの使い方は講習会や研修で習得している。定期的に今後も行っていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や消火設備訓練の実施。近隣住民への協力体制は整っている。	今年度は都合がつかず、消防署立ち会いのもと防災訓練の実施が1回となっている。訓練は利用者も参加して行われ、近隣住民が緊急時の連絡先として電話がかかる協力体制が組まれている。災害時の食料備蓄は買い置き程度で、大雪被害時は職員が食料を持参してまかった。	事業所の構造や立地で避難に不利なポイントの再確認や利用者の避難経路や介護度の高い利用者の避難方法の確認など、職員間で危機意識を持ち課題を共有することを期待したい。また、実際の訓練で近隣住民の参加を促す取り組みができることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの思いや気持ちを尊重した声掛けやケアを心掛けている。	排泄行為がうまくいかなかった際や入浴を拒まれた際は、プライドを損ねず、その方の思いを尊重して接している。利用者を十分理解して接しているつもりでも、その利用者が触れて欲しくない点や対応をとってしまった経験もあるため、常に真摯に接するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来る様に働きかけている。意思表示の難しい利用者には表情や仕草で読み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望や体調、ペースに合った過ごし方が出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容師が訪問。自分に合ったカットや髪染めを行っている。化粧をして外出する事もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	介助が多くなり今は職員と利用者、別で食事を摂っている。片付けや食器拭きは利用者者に手伝って頂いている。	食事は委託業者が献立を考え、それに合った食材が搬入され、職員が調理する仕組みになっている。利用者は、片づけや食器拭きの手伝い、手作りおやつやうどん打ちをしてもらっている。現在介助を行う利用者も多いため、職員と一緒に食べる機会はない。年に数回外食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取のチェック表により職員が食事量を把握している。ポットにお茶が用意しており水分はいつも誰でも飲めるようにしている。希望に添えるよう数種類のお茶を用意。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご自分で出来る方には声掛けや見守りに対応。介助が必要な方には一人ひとりに合わせたケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員が一人一人のパターンを把握。失敗があってもさりげなく処理をしている。	介助が必要な利用者には2～3時間おきにトイレへ誘導する等、ある程度排泄のパターンを把握している。介助の際排泄がなかった場合には時間を変えて誘導し、尿漏れなどの失敗がないよう職員側で介助のタイミングを見極めて対応している。おむつを着用している利用者でも、日中はトイレで座位になってもらい排泄を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取や繊維質の食物に気を使っており、毎朝のラジオ体操を行っている。医師との連携で薬を調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	二日に一度入浴できる支援をしている。時間は決めてしまっているが希望があれば続けてでも入浴できるようにしている。	入浴は、着替えから出るまでゆっくり入っていただき、希望があれば連日でも入れるよう毎日風呂を湧かし、午後に3～4名入浴している。拒否が強い利用者には話しかけ方を変えて接したりと、その方の思いを尊重し対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後、ゆったりとした時間を設け安心して休めるようにしている。日中も希望や状況に応じて休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は飲むまで確認している。変更があった場合などは全員が共有出来る様に申し送りノートやホワイトボードを活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った役割や楽しみを利用者と一緒にさがしている。暖かくなると外出の機会が多い。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	どんな事をしたいか、どんな場所に行きたいか希望を聞き実践できるよう支援。家族に協力して頂き外出される利用者もいる。	季節のよい時期は事業所近くの散歩や、近郊へ桜・コスモスといった花見、初詣、地元で公演されたミュージカル鑑賞などに出かけている。また、利用者の個別の要望でゴルフの練習場へ出かけることもある。自宅や墓参りは家族に利用者の要望を話し、外出協力が得られるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金の所持はしていない。管理出来る利用者が今後いた場合には自分で使えるように支援をする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった場合、電話をして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	座敷に掘り炬燵がありテレビを見ながらくつろげるようになっている。季節の花や飾りつけを行い季節感を感じて頂けるようにしている。	事業所の建物中心の居間兼食堂は、天井高を高くとり梁を幾重にも組んだ状態をあらわにしており、空間に余裕のある場所になっている。また、スペースの一面に掘りこたつがある。その他に、ソファセット、縁側付近に一人がけの椅子があり、他者の気配を感じながら一人の時間を過ごす場所を設け、それぞれの利用者の居場所づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分のテーブルの席は半数の利用者が把握している。声掛けにも配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込んでほしいと入所時をお願いしてるが現実には殺風景になってしまっている。自宅での延長上で生活を考えている。	日常使用している本(聖書)等、机の上に置き使用している。介護度の高い人は家具などは少なく思い出の写真が飾られ、広々とした所でそれぞれの居室となっている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室に表札を掲示している。		